

あれこれ仏教用語

玄関（げんかん）

家の正面入り口のことを玄関
といいます。

この玄関という言葉は、もともと、家の入口のことを呼ぶものではなく、「玄妙な道に入る関門」という意味で、奥深い教えに入る為の入口、または糸口という意味で使っていました。これがのちに、お寺の建物の名前となり、禅寺の客殿の入口を指すようになりました。

そして、室町時代から桃山時代にかけて盛んにつくられた書院造りにその形式が取り入れられるようになりましたが、まだ、庶民の住宅に使うことは許されていませんでした。

江戸時代になってようやく許されるようになり、民家や一般の

建物にも広まりました。

それから正面の入口のことを「玄関」と呼ぶようになりました。



雑記抄

くお盆の水塔婆書きく

雨の多い季節となりました。

庭の草木も雨に濡れ、若葉がい

っそう鮮やかに見えます。

気が付けば六月になり、もうす

ぐ一年の半分が終わろうとしています。

毎年この頃になると、お寺では

お盆の水塔婆書きが始まります。

お寺に保管してある過去帳を

一軒一軒繰りながら、戒名を水塔

婆に書いていきます。

戒名を読みながら筆を進めていると、ふと、その人の生前の姿勢やお顔がよぎり、おっしゃっていた言葉やちよっとした会話などを思い出して懐かしく思うことがあります。

水塔婆を書く時期というのは、亡き人々と向き合う時間でもあります。

これから、ご先祖さまが帰って来られるお盆までの二カ月間。過去帳に向かって筆を走らせる日々が続きます。

平成二十二年六月一日発行

じょうどしゅうせいざんぜんりんじは

浄土宗西山禅林寺派

常林院

月影



第 33 号

いの
祈るによりて、やまい 病も止み、

いのち
命も延ぶることあらば、

ひとり
だれかは一人として

や
病み死ぬる人あらん。

ほうねんしょうにん
法然上人



訳) 神仏に祈ることによって病気が治り命も延びるならば、誰一人として病気になって死ぬる人はいないことになりましたが、そんなことはありません。

平安時代末期から鎌倉時代初期の法然上人が生き
ておられた時代。その頃の人々にとって病気とい
うのは、悪い病気の縁が身体に入り込んだ為に起こ
るのだと信じられていました。治療法は祈祷(きとう)
によって厄病縁を取り除くことでした。そして、僧
医と呼ばれる僧侶によって、厄病払いの儀式が行わ
れていました。

そういう時代に法然上人は、

「もしも神さまや仏さまに祈ることで、病気が治
ったり、命が延びたりするのであれば、誰一人、病
気にかかって死ぬる人はいないのではないのか。」
とおっしゃいました。

祈祷による治療が常識と考えられていた時代にあ
って、法然上人のお言葉を聞いた人々は、きっと驚
かれたことだと思います。法然上人は、祈ることに
よって病から目をそらすのではなく、病を受け入れ
て、病とつきあいなさいと諭しておられます。

医療技術が進歩した現代でも、物事が思うよう
にいかない時、神さま仏さまにすがりたい気持ち
が起こってくる場合があります。自分にとって悪い出来
事を受け入れるということは、とても難しいこと
です。

お経の話 く何が書いてあるの？

浄土宗西山勤行式 (赤本) 解説

三尊礼 (さんぞんらい) ① 弥陀礼

なむししんきみようらいさいほうあみだー

南無至心帰命礼西方阿弥陀佛

弥陀身色如金山 相好光明照十方

唯有念佛蒙光摄 当知本愿最為強

六方如来舒舌證 専称名号至西方

至彼華開聞妙法 十地願行自然彰

願共諸衆生 往生安樂国

訳) 西方かなたにあるという極楽浄土にいらっしや

います阿弥陀さまを深く信仰し礼拝いたします。

阿弥陀さまのお身体は金色に輝く山のようにです。

その姿から放たれる智慧や慈悲の光はあらゆる

世界を照らします。ただ念仏をする人だけがそ

の光をこうむるのです。まさに知るべきです。

阿弥陀さまの本願が最もすばらしいということ

を、六方におられる仏さまが述べておられます。

ひらすら阿弥陀さまの御名をとなえれば、西方

極楽浄土に生まれ、ここでは蓮の花の台座の上

でありがたい教えを聞き、あらゆる願いと実践

によって、おのずとさとりが開かれていきます。

すべての迷いの世界にある人々と共に願いまし

よう。阿弥陀さまの安樂な国に生まれることを。

三尊礼の三尊とは、阿弥陀仏、観音菩薩、勢至菩

薩のことです。この三尊を賛える(たたえる)礼賛

(らいさん)であるから三尊礼と言います。

今回は三尊礼のうちの阿弥陀仏の箇所、弥陀礼で

す。お念仏によって、阿弥陀さまは私たちを一人も

もらさず救ってくださいることが記されています。

永観堂だより

中西玄禮御法主晋山式

浄土宗西山禅林寺派管長、総本山禅林寺第九十世法主、中西玄禮新管長の晋山式が四月十八日に永観堂禅林寺において挙行されました。

当日は、快晴に恵まれ鮮やかな新緑に包まれた境内に、浄土系教団の役職者、派内寺院、婦人会、檀信徒ら約六百三十人が法要に出席し、中西管長の御晋山をお祝いしました。

常林院からは、住職と檀信徒総代三名様が当寺の代表として出席致しました。



晋山式とは・・・

しんざんしき
晋山式の「晋」は「すすむ」という意味です。そして「山」はお寺のことです。お寺には山号という〇〇山という名がついています。当山常林院の山号は紫雲山です。

したがって晋山式とは、お寺にすすむ式、つまり、そのお寺に新しい住職が入山する式のことです。檀信徒の皆様からすれば、新しい住職をお寺にお迎えする式ということになります。

永観堂禅林寺の山号は、聖衆来迎山（しょうじゅらいこうざん）といいます。

法然上人お待ち受け法要

四月十日、中西玄禮御法主と共に、京都の二カ寺で厳修されました、お待ち受け法要に出仕して参りました。

今回は、三人の説教師の一人として出仕しました。十五分という短い時間でしたが、檀信徒の皆さんに拙い話を聞いていただきました。

御忌会

ぎよきえ

今年も御忌会が四月二十一日から四日間、総本山永観堂において厳修されました。

今年も第七百九十九回忌の御忌でした。いよいよ明年は、法然上人八百回大遠忌です。

五十年に一度の大遠忌、どうぞ皆様、本山にお参り下さい。